

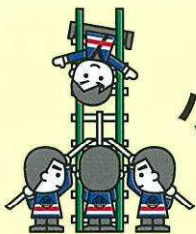


# みなみ消防団だより



平成28年12月1日  
第2号

発行 小倉南消防団



## 小倉南消防木遣り会の発足について

小倉南消防木遣り会代表 榑野 保博



新春を告げる風物詩として、消防出初式は全国各地で行われ、粋な半纏姿の消防団員が、「木遣り唄(きやりうた)」、「纏振り(まといふり)」、「梯子乗り(はしごのり)」など、勇壮で優雅な演技を繰り広げ、町火消(まちひけし)の心意気を今に伝えています。

本市の出初式においては、「纏振り」や「梯子乗り」が行われてきましたが、残念ながら「木遣り唄」を披露する消防団がなく、市民の皆さんからは「生の木遣り唄を聴いてみたい。」との声があがっていました。

この「木遣り唄」は、鳶職の間で唄われていましたが、江戸時代中期に町火消が誕生したとき、火消の中心となった鳶職によって傳承されたといわれています。現在では、消防団に受け継がれ、出初式をはじめ、祭礼や記念行事などで唄われ、無形文化財に指定されるなど日本の伝統文化のひとつとなっています。

このたび、小倉南消防団では、歴史と伝統ある「木遣り唄」を継承し、町火消の心意気を皆さんに直に伝えることによって、防火・防災思想の普及に取り組んで行くことといたしました。

平成29年の北九州市消防出初式において、立派な木遣り唄を披露することができるよう、日々精進して参りますので、皆様方の温かい御支援、御協力をお願いいたします。

# みなみ消防団だより



平成27年12月1日  
記念号

発行 小倉南消防団

## 自分たちのまち



## 大切なひと



## 私たちが守ります



## ご挨拶

小倉南消防団長 柳野 保博

「みなみ消防団だより」の創刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

小倉南消防団は、昭和四十九年四月に発足し、昨年で四十周年を迎えました。

小倉南区の皆様方におかれましては、これまで消防団活動に格別のご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、昨年の広島市における土砂災害や、今年九月の茨城県常総市鬼怒川の堤防決壊等、近年、全国各地でこれまでに経験したことのない記録的豪雨によって、尊い人命と貴重な財産が失われる大きな自然災害が頻発しています。

このようなか、消防団は、災害から皆様の生命や財産を守るために、郷土愛護と奉仕の精神をもって、昼夜を分かたず災害の防除等に従事し、消防署とともに地域防災の要として、安全で安心なまちづくりに全力で取り組んでいるところです。

このたび、小倉南消防団発足四十周年を記念して、この「みなみ消防団だより」を発刊することによって、小倉南消防団の活動を皆様方にご理解いただき、地域に密着した防災組織として日々の消防技術の練磨に励み、更なる消防・防災体制の充実強化に努めて参りたいと考えています。

どうか、今後とも、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

むすびに、皆様方のご多幸、ご健勝を心から祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

## 小倉南消防団 分団管轄エリア

この図では「校区」ではなく「エリア」で示しています。



# みなみ消防団だより



平成29年12月1日  
第3号

発行 小倉南消防団

## ご挨拶

小倉南消防団長 榎野 保博

小倉南区の皆様や団員家族の皆様におかれましては、消防行政にご理解をいただきまして、心から厚く御礼を申し上げます。

さて、昨今の災害を振り返りますと、地震をはじめ台風や大雨による甚大な被害が毎年発生しており、このような災害はどこでも起こりうるものだと考えられます。

我々消防団は、災害時においては最前線に立ち、その後の捜索活動に至るまで厳しい任務と非常に大きな役割を担っていることを再認識するとともに、小倉南区の安全で安心なまちづくりの実現に向けて一層の努力をしていく所存であります。

小倉南消防団は地域の皆様の最も近くに存在し、いつも皆様の力になることができるよう小倉南消防署内に消防団本部を置き、区内の14ヶ所の消防分団本部と13ヶ所の消防分団支部を置き、消防車と消防団員を配置して、火災、風水害への対応や火災予防、救急広報等を積極的に推進していくよう心がけております。

今後とも、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。同時に、皆様方のご多幸、ご健勝を心から祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

